

検討委員会委員の意見まとめ（第 3 回検討委員会を終えて(9 月 11 日提出)）

■ 章立ての案に沿った協議全体について

- 章立ての案は、Why - What - How で書かれていてわかりやすいと感じる。
- 検討委員会としての現時点の方向性が定まった（施設一体型小中一貫校に向けて進めていく等）ことはよかったと思う。

1 適正規模・適正配置と一貫教育の在り方

- 「施設一体型小中一貫教育」の学校をめざすのがよい。平生町は 3 校が一緒になっても大規模校ではなく、人口減少、少子高齢化、地域コミュニティの弱体化等の社会の流れも看過できない。10 年後、20 年後を見据えた長期的な視野に立って、有効活用できなかったり、維持管理が難しくなったりしないような平生町の核となる学校施設を考えていきたい。
- 「施設一体型小中一貫教育」の実現まで、児童生徒の学びの確保や、それに関わる先生方の多忙感を緩和するための学校支援を充実してほしい。多忙感の中で心を育む教育がおろそかにならないように努められたい。
- 「施設一体型小中一貫教育の開始時に小・中学校 3 校が一緒になるのがよい」と現状では検討委員会としてまとめられたが、平生小の位置で施設一体型をするのであれば、今の平生小第 1 校舎はそのまま利用できるのもので、不登校への対応、中 1 ギャップ、教員数、地域ボランティアなどを考えると、施設一体型がスタートするのを待たずに佐賀小と平生小を統合することもよいのではないかと思う。
- 「施設一体型小中一貫教育」の学校をめざすのであれば、「佐賀小廃校」という言葉は使わず、統合等の言葉で文章を統一したほうがよいと思う。

2 連携・協働を基盤とした学校づくり

- 小中一貫教育のもとでの学校運営協議会の在り方について、「小学校部会（小学校学校運営協議会）」と「中学校部会（中学校学校運営協議会）」と分けた例示がこれまで資料に示されてきたが、小中一貫教育校の 4・3・2 制と合っていないと思う。「4」と「3+2」の二つの部会（名称は第 1 部会、第 2 部会とするなど）に分けて設置するなど、他にも考えられるものがあるのではないかと思う。
- 施設分離型小中一貫教育のモデルケースを、子どもと保護者の意見も必要とは思いますが、佐賀小で実施してみてもどうか。

3 学校施設の更新に向けた考え方と更新時期

- 知り合いの施設担当者に尋ねると、新校舎建築までは最低でも 4～5 年がかかるということであった。現在の校舎の老朽化や児童生徒数の減少を考えると、あまり時間の猶予はない。町民の理解、建設地の確保をはじめ課題は山積だが、平生町役場の最優先課題として捉え、町民全員がわくわくするような新学校設立になることを期待する。

4 新しい学校施設の整備等の視点

〔「学校施設の理想の姿に向けた視点及び課題」の全体に関わることについて〕

- 全体を通して、「一貫（９年間）の教育活動できる学校施設環境」と「一貫（９年間）の学校運営できる学校施設環境」が重視される必要があると思う。

〔【子どもたちの主体的な活動を支援する施設等の整備】の「特別支援教育の推進のための施設等（インクルーシブ教育システムの構築に向けて）」について〕

- 『普通学級の児童生徒にも自然と合理的配慮が出来るようになる環境づくりをしたい。』という内容の文言は入れられないか。

〔【子どもたちの主体的な活動を支援する施設等の整備】の「施設一体型小中一貫校として『学年段階の区切りに対応した校舎の配置計画』と・・・に関わることについて〕

- 学年段階の区切りに対応した空間構成、配置（小学校低学年は、教室周りなど目の届きやすい範囲で活動できるようにする等）ができるとなおよい。

〔【安全でゆとりと潤いのある施設等の整備】の「カウンセリングの充実のための施設（含：不登校児童生徒の居場所）」について〕

- 安心して相談できる教育環境は、保護者、児童生徒にとって大事である。そのため、「カウンセリングの充実のための施設」の充実を盛り込むことはとてもよい。
- 「不登校児童生徒の居場所を整備する（カウンセリングの充実）」として、不登校児童生徒の支援を前面に出すのがよい。
- 『スクールカウンセラーが常駐する保健室、教育相談室、不登校支援のための・・・』と、下線部の文言を入れると保護者も安心するのではないか。

〔【地域と連携した施設等の整備】の「活動・交流拠点としての「共創空間」の創出）」について〕

- 「多様な年齢層や地域交流も視野に入れたユニバーサルデザイン」「地域ぐるみで学びを支えつつ、地域の未来を語る施設」を意識したい。

〔【その他（課題）】の「給食調理施設」について〕

- これまでの検討委員会委員や保護者の意見、アンケート結果などもあり、自分も自校給食を望んではいるが、校舎建設等には膨大な費用がかかることや、自校給食施設建築費やその維持費にも莫大な費用がかかることから、R7年9月からの田布施町学校給食センターの共同利用を続けることが最善の方策だと思う。その際、激甚災害時の避難所としての役割から、新設校舎の建設では、家庭科室（調理室）の充実の視点を大切にしたい。

〔めざす学習環境をポンチ絵的にまとめることについて〕

- 内容が他の章等で触れられているので必要を感じない。
- 施設（めざす学習環境）に関しては、プロポーザル方式を取り入れるなど、専門家を交えて話し合うほうがよいと思うので、本検討委員会でポンチ絵的に示すところまで必要なのだろうか、できるのだろうかと思う。
- それまでの内容と被るのでなくても差し支えない。具体的に分かりやすく可視化がされているのであっても不都合ではない。

- 従来の学校との違い（よさ）を強調・周知するためにも必要だと考える。こここそが諮問の核なので、地域住民に「めざす学習環境」の内容はアピールする必要がある。
- 1 ページでわかりやすくまとめてあるので、答申の中に記載してもよい。

5 基本構想の実現に向けての付帯意見

〔【佐賀小のよさ（少人数教育や地域連携）の引継ぎと補完事業】について〕

- 「平生町学校・地域連携カリキュラム」の実施にあたり、佐賀小を新たなコミュニティの場として活用することの他、教育支援センターの機能としての活用について検討することについて、特に強調して示すのがよい。
- 「佐賀小を教育支援センターの機能として活用することについて検討されたい」という表現だけでは、教育支援センターがどういうものかが分からない（伝わらない）。
- 教育支援センターを佐賀小につくるという意見があるが、佐賀小につくるのではなく、新校舎内（他の児童生徒と顔を合わせずに出入りできる）に部屋を確保するのがよいと考える。15 の春をどう迎えるかをゆっくりと考え、安心して過ごせる居場所がある新校舎を希望する。
- 「佐賀小を教育支援センターの機能として活用することについて検討されたい」という表現について、「教育支援センター」の定義がよく分からないので、「…教育支援センターの機能を持つ本校の分教室としての活用について…」とすると、佐賀小の活用を多岐にわたって検討しているとのニュアンスが広がると思う。

〔【小中一貫教育のよさの周知・説明】について〕

- 「地域や保護者にも小中一貫教育の必要性を理解…」を「施設一体型ひらお学園の必要性を理解…」と変えて記載することで、平生町立学校のめざす姿を強く示した方が地域住民とゴールの姿を共有しやすいと思う。

〔【その他】について〕

- 「就学前施設のあり方」についても「施設一体型小中一貫教育」構想の中に入れられないか。幼保（町立）も現平生小・現平生幼稚園・現中央児童館の敷地内に入れたいと考える。

6 その他

- これまでの意見の中で、「佐賀小から平生中へ進学した際に直面する戸惑い」についての話が心に残っている。これ以降、小中高生ボランティア受入れ等でも佐賀小と平生小の児童の交流を考えるようになった。すべての児童に言えることだが、環境の変化でつらい思いをすることの無いよう、配慮しながら体制を変えていく必要があると思う。この度の「小規模小学校からの中学校進学の問題」の話や、例えば「地域の中で学校以外の居場所がほしい」といった意見など、課題やニーズを出せる場があればいいと思った。地域で協力し合って少しでもよい方向へ進むことを期待する。
- 将来の平生町立学校の在り方の検討について、町民の認知が低い。
認知度が低い状況で、実際に学校が統合されるなどが答申として出ていけば、後で知ったとして意見や不満等が出てくることもあることから、周知を図るため、「広報ひらお」に A4 1 ページ（表）に本会のこと（主旨・方向性・構想等）をコンパクトにしたものを掲載したり、役場にそれを掲示したりするのも一計と考える。

- 以前の資料「資料１７の要約（まとめ）」について、少し要約の幅が大きすぎると思う。「地域活性化プロジェクトクラブをつくって、これからの平生町をどうする」というような話合いの場があると楽しい…」と伝えたつもりだった。
- これまでの意見や資料がよくまとめられている。